

《「人を知る」ということは・・・》

「あの人、誰？」 「あの人知らないの？ 谷司教様じゃないの。」

「あの人、誰？」 「あのシスター？ シスター・オフェリアよ」

このような会話は私達の間でよくありますよね。何かを知るということ。皆様が知っている物はたくさんあると思いますが、皆様が知っている人はたくさんいらっしゃるでしょうか？ 物を知る、ということと言えることだと思います。

しかし、人について「私はあの人を知っている」「知る」ということはどういうことでしょうか？

「人を知る」ためには少し条件があると思います。例えば、この前の総理大臣は誰でしたか？

「安倍さん」、その前は？ 「小泉さん」、そうですね。皆知っていますね、その人の名前は。しかし、総理であること以外、彼について何を知っていますか？ 彼の心を知っていますか？ もし、私達が「あの人のことを知っている」と言うときは、何よりその人の心の動きとか心の状態をわからなかったら、「知っている」というのは無理です。

皆様が私、金神父のことを誰かに説明するためには、まず私の心を読んで下さい。心の中に入って測るべきです。長い間夫婦として同じ屋根の下で暮らしていても、相手が別人のような気がする時があるでしょう。これが人間です。私達がある人を「知っている」というためには、その人の心の中に入ろうとしていたか、その人の心の動きを注意しながら、その心を見ようとしていたか、そういう努力が必要です。

その人が何が好きで、何を悩んでいて、何を怖がっているのか。何で心を痛めているのか、何を望んでいるのか。その人にとってこれは良いことか、悪いことか。まず基本的なことを私達は測らなければなりません。何故なら私達がよく犯すまちがひがあります。それは、自分の測りで人を測ることです。自分の目で、自分の基準で人を描いてしまうことです。自分の目でみただけで人を判断する。しかし、それは自分勝手な測りによって測られた相手です。自分の測った重さ、広さ・・・等で、その人はこういう人だと思ってしまう。しかし、そうではありません。

今日の福音で洗礼者ヨハネは「あの人を知らなかった」と二回言っています。

さあ考えてみましょう。誰かを知るためには、その人が何を望んでいるか、何を悲しんでいるか測るべきだと私は思います。その相手がイエス様だったらどうです？ 皆様イエス様を知っていますね。しかし「私はイエス様を知っています」と言うことができるためには、イエス様のみ旨は何か、何を喜ばれるのか、何を悲しまれるのかを測ろうとするのが、私達の正しい態度だと思います。要理の勉強で頭に入れたことは、実際には意味がないかもしれません。

本当に祈りとは何でしょうか？ まず「神様のみ旨は何だろう」という黙想です。

「イエス様、私がこれをしたらあなたは喜ばれるでしょうか？ それとも悲しまれるのでしょうか？ どうか導いて下さい」というのが祈りです。

イエス様について、マリア様について、私達が信じている相手、知っている相手について、どの位心を込めて見つめてきたか、まず振り返ってみる必要があるのではないかと思います。

家庭訪問が始まりました。皆様の中には、疑問を持っていらっしゃる方もいると思います。

「なぜ家庭訪問をするのか？」と。単刀直入に申し上げます。それは皆様のことを知りたいからです。私が担当司祭として、皆様の顔だけを見て「私はあの人を知っている」と言いたくないのです。その生き方、環境など知りたいのです。まず皆様の家まで足を運んで行って、どのような雰囲気の中で暮らしているのか、何を悩んで、心配しているのか、それを知りたいのです。それを知らなくてどのよ

うな司牧的な仕事ができるでしょうか？

家庭訪問するのに一日6時間かかります。一軒1時間で6件です。実際私も疲れますよ。私は幾つかの簡単な質問をするだけで、皆様が話します。私はほとんど聞くだけですから疲れます。しかし、しなければならぬことですからします。それは今日の福音の「知る」ということ通じるところがあると思います。その人を知らなくて導くことはできません。できる限り皆様のところに直接行って感じたいのです。心配なさらないで本当に心の中にあることを話して下さい。そんなに深刻な質問はしませんから安心して下さい。中には私が聞かないことまでよく話して下さい方もいらっしゃいます。それが自然です。話したいことは全部話して下さい。私はそれを墓まで持って行きますから心配しないで下さい。

この家庭訪問は外国人までやると、少なくとも6ヶ月以上かかると思います。でもやります。皆様のご協力をお願いします。

整理しましょう。私達が誰かを「知っている」という言葉を使うためには、その人の心を知ろうとする努力が必要であるということをお覚しておきましょう。

ありがとうございました。